

# 中学校女子バレーボール部顧問のリーダーシップ行動と チーム心理に関する研究

藤田 雅文\*, 安本 空\*\*

(キーワード: 中学校, 女子バレーボール部, 顧問, リーダーシップ行動, チーム心理)

## 1. 緒言

スポーツ庁は、2018年3月に、少子化が進展する中、従前と同様の運営体制では維持が難しくなっている中学校の運動部活動の在り方に関して、速やかに抜本的な改革に取り組む必要があるとし、「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」<sup>1)</sup>を策定し、全国の自治体や学校に通知している。その中で、「運動部顧問は、・・・(中略)・・・、生徒とコミュニケーションを十分に図り、生徒がバーンアウトすることなく、技能や記録の向上等それぞれの目標を達成できるよう、競技種目の特性等を踏まえた科学的トレーニングの積極的な導入等により、休養を適切に取りつつ、短時間で効果が得られる指導を行う。また、専門的知見を有する保健体育担当の教師や養護教諭等と連携・協力し、発達の個人差や女子の成長期における体と心の状態等に関する正しい知識を得た上で指導を行う。」と述べている。

また、この総合的なガイドラインの前提となった「運動部活動での指導のガイドライン」(文部科学省、2013年5月)<sup>2)</sup>では、運動部活動の指導者は、1) 科学的裏付け等及び生徒への説明と理解に基づく指導の実施、2) 生徒が主体的に自立して取り組む力の育成、3) 生徒の心理面を考慮した肯定的な指導、4) 生徒の状況の細かい把握、適切なフォローを加えた指導、5) 指導者と生徒の信頼関係づくり、6) 上級生と下級生、生徒の間の人間関係形成、リーダー育成等の集団づくり、7) 事故防止、安全確保に注意した指導、が重要であると述べている。

このように、運動部顧問の行動や言動のあり方については、教育行政の立場から多方面の留意事項が指摘されているが、中学生の運動部顧問の指導の実際に焦点を当てて、そのリーダーシップのとり方と効果の関係について検討した研究<sup>3)</sup>は希少である。そこで本研究では、2018年度現在で、女子中学生の加盟校数<sup>4)</sup>が最も多く(7882校)、部員間の信頼関係を基盤とした目標達成に向けた協力的行為が重要視されるバレーボール部の顧問を対象として、そのリーダーシップのとり方と効果の関係について改めて検討した。

## 2. 方法

### (1) 顧問のリーダーシップの測定

リーダーシップ研究は、1940年代～1960年代にかけて、リーダーシップを持ち合わせていると思われる人物に共通する要因を見つけようとする特性アプローチから始まり、行動アプローチ、状況対応アプローチなど、様々な手法によって研究が積み重ねられている<sup>5)</sup>。

本研究では、中学校女子バレーボール部の顧問のリーダーシップを測定することを一つの目的にするため、これに適合する調査票を検出する必要があると、多くのスポーツ集団のリーダーシップに関する先行研究を探索した。その結果、Chelladurai & Saleh(1980)<sup>6)</sup>によって開発されたThe Leadership Scale for Sportsをバレーボールの監督に応用した調査票<sup>7)</sup>を見出し、これを使用して測定することとした。

その内容は、表1に示した通り、「練習と指導」「民主的行動」「専制的行動」「社会的支援」「報酬行動」「バレーボールの技術」「バレーボールにおける精神力」の7尺度37項目である。

質問の語句については、中学生にわかりやすい表現に一部修正し、先行研究に準拠して5段階の選択肢(5.い

\*鳴門教育大学生活・健康系コース(保健体育)

\*\*神戸市役所行財政局財政部契約監理課

つもあてはまる, 4. たびたびあてはまる, 3. 時々あてはまる, 2. ほとんどあてはまらない, 1. 全くあてはまらない) を用意し, 各中学校女子バレーボール部のキャプテンに最もあてはまる程度を一つ選択してもらった。

また, リーダーシップの得点化については, リッカートの簡便法に従い, 5段階で回答された番号を数値得点に振り分け, 因子ごとの合計点と総得点を算出した。なお, 「21. 選手のえこひいきをする。」は逆転項目であるため, 回答番号を逆転させて数値得点にした。

表1. 顧問のリーダーシップ行動に関する質問項目

因子	質 問 項 目
練習と指導	1. 選手全員が最善を尽くして練習していると思っている。
	2. 選手一人一人にテクニックや戦術の指導をしている。
	3. 選手にミスを正すことに特別の配慮を配っている。
	4. チームにおける監督の役割を選手全員に確実に理解させている。
	5. 選手全員に何をすべきで, 何をすべきでないかを伝える。
	6. 監督の与えた課題を全選手が最後までやり抜くことを期待する。
	7. 一人一人の選手の長所と短所を指摘する。
	8. どんな状況においても, 何をすべきか各選手に明確な指示を出す。
	9. 各選手の活躍がチーム全体にどう貢献するかを説明する。
民主的行動	10. 試合における戦術・戦法についての選手の意見に指示を出す。
	11. 選手もまじえて物事の決定を行う。
	12. 各選手に自分の目標を設定させる。
	13. たとえミスするかもしれないでも, 選手に選手のやり方で行わせてみる。
	14. 選手一人一人にあったペースで練習を行わせる。
専制的行動	15. 試合で使う戦術・戦法については選手自身に決めさせる。
	16. 重要な問題に関しては妥協しない。
社会的支援	17. 一方的な雰囲気で行う。
	18. 選手の個人的な問題の解決にも手をかしてくれる。
	19. 選手間の争いを解決する手助けをする。
	20. 各選手の健康状態に注意を配っている。
	21. 選手のえこひいきをする。
	22. 選手に対して愛情を示す。
	23. 監督を信頼するよう選手に求める。
	24. 身近で遠慮のない関係を監督と保つよう選手に勧める。
報酬行動	25. 他の人の前で選手のプレーをほめる。
	26. 特に良い動き, 良いプレーをしたときはすぐ選手にそれを伝える。
	27. 選手の体力, 技術, 精神力の向上にそれなりの評価を与える。
	28. ほめるべき時はほめる。
バレーボールの技術	29. あと1点で負けてしまうような危機的場面で, 適切な技術的・戦術的アドバイスや処置をする。
	30. 試合の流れを変えなくてはならないような重要な場面で, 適切なタイムアウト, メンバーチェンジを行う。
	31. 相手の弱いところを素早く見抜いて, 選手に伝える。
	32. 試合直前の選手の体調や精神状態には常に気を配っている。
	33. 試合の時はチーム全員が納得できるようなメンバーを組む。
バレーボールにおける精神力	34. どんなに態勢が不利になっても最後まで試合を捨てさせない。
	35. 試合中選手が弱気になった時は叱咤激励し, 気を抜いた時はひきしめる。
	36. プレーに迷いがあつたり, コンビネーションが合わなかつたりすると, 適切なアドバイスをする。
	37. 試合中の危機的場面を想定した練習を日頃から行う。

(2) チーム心理の測定

顧問のリーダーシップの効果として、部員のモラルを測定した多くの先行研究<sup>8)</sup>があるが、本研究では、日本オリンピック委員会医・科学研究メンバーによって開発された、チーム心理診断テスト(SPTT: Sport Psychological Test for Teams)<sup>9)</sup>を用いてチーム心理を測定した。

SPTTの設問は、全50項目で、「チーム有能感」因子22項目、「コーチ信頼」因子11項目、「メンバー関係」因子9項目、計42項目に加えて、応答の正確性に関する尺度8項目の4尺度で構成されている。

本研究では、顧問のリーダーシップを測定するThe Leadership Scale for Sports(応用版)の中の質問項目と同じ内容になる質問項目を削除し、さらに、回答の負荷を考慮して、応答の正確性に関する質問項目を除いた3尺度34項目から成る調査票を作成した。その内容は、表2の通りである。

表2. チーム心理診断テスト(SPTT)

因子	質問項目
チーム有能感	1. われわれのチームは強い。
	2. われわれのチームのメンバーであることは、非常に価値がある。
	3. われわれのチームは、すばらしい攻撃力を持っている。
	4. われわれのチームは、だれもがすばらしいプレーをする。
	6. われわれのチームは、集中力が優れている。
	7. われわれのチームは、常に状況や作戦を考えながらプレーできる。
	10. われわれのチームはスタミナがあり、どんなに長い試合でも相手チームよりもがんばれる。
	11. われわれのチームのメンバーは、素早い動きを身につけている。
	12. われわれのチームは接戦の試合においても、決してあわてず勝つことを信じてプレーをしている。
	13. われわれのチームは、大きな試合になればなるほど闘志がわいてきて、いいプレーをすることができる。
	15. われわれのチームは、守備力ではどのチームにも負けない。
	17. われわれのチームはよくまとまっており、積極的に練習するので、これからも強くなっていくと思う。
	18. われわれのチームのメンバーは研究熱心で、われわれの競技についてよく知っている。
	19. 試合で負けていても、われわれのチームはしっかりとまとまっている。
	20. われわれのチームは、試合中、相手チームがどんなプレーをしようとするのか予測することができる。
	21. われわれのチームは、試合ですばらしいチームワークを発揮する。
	22. われわれのチームは、他のチームよりも優れたコンビネーションプレーができる。
	24. われわれのチームは、負けそうな試合でも暗い気持ちにならず、最後まで試合をあきらめない。
	27. われわれのチームは、常に自信を持って試合にのぞむ。
	30. われわれのチームのメンバーは、優れた運動能力を持っている。
	31. われわれのチームには、粘り強さがある。
	33. われわれのチームは、将来性があると思う。
コーチ信頼	9. われわれのチームのメンバーは、顧問を尊敬し、どこまでもついていこうと思っている。
	16. われわれのチームのメンバーは、顧問の作戦を理解し、それが達成されるまでトレーニングを続けていけると思う。
	26. われわれのチームは、顧問の指示や注意をよく聞きながら練習に励んでいる。
メンバー関係	5. チーム内の人間関係で、お互いつまらないことで不愉快な思いをすることがある。
	8. チーム活動以外でも、メンバーはお互いによくやっていると。
	14. チームメンバー間のコミュニケーションは少ない。
	23. われわれのチームのメンバーは、お互いに大切な友達だと思っているので、とても仲が良い。
	25. われわれのチームでは、メンバー間の人間関係は良い(うまくいっている)と思う。
	28. われわれのチームの仲間は、試合や練習以外のときは、バラバラの状態だ。
	29. チームの仲間との間に友情を感じ、また、それに満足している。
	32. われわれのチームでは、先輩・後輩の関係はうまくいっている。
34. 現在のチームの中に、嫌いな人がたくさんいる。	

各質問項目について、先行研究に準拠して7段階の選択肢（7.非常にあてはまる, 6.かなりあてはまる, 5.ややあてはまる, 4.どちらでもない, 3.ややあてはまらない, 2.あまりあてはまらない, 1.全くあてはまらない）を用意し、各中学校女子バレーボール部のキャプテンに最もあてはまる程度を一つ選択してもらった。

また、SPTTの得点化については、リッカートの簡便法に従い、7段階で回答された番号を数値得点に振り分け、総得点を算出した。なお、「メンバー関係」の5・14・28・34の設問は、逆転項目であるため、回答番号を逆転させて数値得点にした。

### (3) 顧問の属性

顧問のリーダーシップ行動は、属性によって異なるのかどうかを明らかにするため、以下の設問を置いて顧問自身に回答を求めて実態を把握し、リーダーシップ総得点との関係を分析した。

- ①性別 ②年齢 ③担当教科 ④教職経験年数 ⑤バレーボール部の顧問経験年数
- ⑥バレーボール競技経験年数 ⑦現役プレーヤー時代の競技レベル
- ⑧バレーボールに関する指導者・審判資格の有無

### (4) レクリエーション活動等

多くのビジネスの組織のリーダーシップ研修、人材開発の現場ではチームビルディングが導入されている。チームビルディングとは、「仲間が思いを一つにして、一つのゴールに向かって進んでゆける組織づくり」のことであり、具体的な内容は、親睦を深めるためのイベントや旅行、部署内での飲み会などの共通体験を持つこと、チームビルディングを目的に開発された合宿研修プログラムを実施すること、日常の職場で定期的にチームミーティングを持つこと等である<sup>10)</sup>。

藤田（2017）<sup>11)</sup>は、高等学校の男女バスケットボール部顧問の管理行動に関する研究の結果、女子部は男子部より多くのレクリエーション活動を行っており、それが顧問と部員及び部員間の信頼関係を構築していると述べている。そこで本研究においても、練習や試合以外のレクリエーション活動等の実施状況について、顧問に対して自由記述で回答を求め、チーム心理との関係を分析した。

### (5) 調査対象の選定

日本バレーボール協会のwebページ<sup>12)</sup>に掲載されている平成29年度第47回全日本中学校バレーボール選手権大会に出場した中学校36校を選定した。次に、各都道府県バレーボール協会のwebページを検索して、この全国大会の出場資格を得るために開催された、北海道から九州に至る9つのブロック大会に出場した中学校113校を選定した。さらに、全国・ブロック大会に出場した中学校以外については、全国学校総覧2014年版<sup>13)</sup>より492校を等間隔に抽出した。

### (6) 調査方法・期間・有効回答数（率）

調査は、郵送による質問紙調査法によって、平成30年9月～11月に実施した。有効回答数（率）は、表3の通りである。

表3. 対象別の有効回答数（率）

区分	配布数	有効回答数	有効回答率
全国大会出場校	36	10	27.8
ブロック大会出場校	113	21	18.6
一般校	492	93	18.9
計	641	124	19.3

### (7) 統計処理

調査で得られたデータは、フリーソフトjs-STAR<sup>14)</sup>とWindows 10のMicrosoft Excel 2016を用いて、カイ二乗検定、単回帰分析、平均値の差の検定を行った。

### 3. 結果と考察

#### (1) 顧問の属性

##### 1) 性別

性別は、表4の通りである。直接確率計算を行った結果、10%水準で男性の方が多い有意傾向が見られた。

表4. 性別

性別	男性	女性
n	73	51
%	58.9	41.1

$p < .10$

##### 2) 年齢

年齢は、表5の通りである。 $\chi^2$ 検定を行った結果、回答者の年齢に偏りはみられなかった。

表5. 年齢

年齢	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代
n	26	32	37	29
%	21.0	25.8	29.8	23.4

$\chi^2 = 2.129$  n.s.

##### 3) 担当教科

担当教科は、表6の通りである。直接確率計算を行った結果、保健体育科以外の教員の方が5%水準で有意に多いことが認められた。

表6. 担当教科

担当教科	保健体育科	保健体育科以外
n	49	75
%	39.5	60.5

$p < .05$

##### 4) 教職経験年数

教職経験年数は、表7の通りである。 $\chi^2$ 検定を行った結果、年齢と同様に、教職経験年数には偏りはみられなかった。

表7. 教職経験年数

年数	5年未満	5～10年未満	10～15年未満	15～20年未満	20～25年未満	25～30年未満	30年以上
n	17	28	16	18	13	12	20
%	13.7	22.6	12.9	14.5	10.5	9.7	16.1

$\chi^2 = 9.562$  n.s.

##### 5) バレーボール部の顧問経験年数

バレーボール部の顧問経験年数は、表8の通りである。 $\chi^2$ 検定を行った結果、「5年未満」の教員が、その他のカテゴリーの教員よりも有意に多いことが認められた。

表8. バレーボール部の顧問経験年数

年数	5年未満	5～10年未満	10～15年未満	15～20年未満	20～25年未満	25～30年未満	30年以上
n	45	22	14	15	10	8	10
%	36.3	17.6	11.3	12.1	8.1	6.5	8.1

$\chi^2 = 56.290$   $p < .01$

##### 6) バレーボール競技経験年数

バレーボール競技経験年数は、表9の通りである。 $\chi^2$ 検定を行った結果、「3年未満」と「10年以上」の教員

が、「3～6年未満」「6～10年未満」の教員よりも5%水準で有意に多いことが認められた。

表9. バレーボール競技経験年数

年数	3年未満	3～6年未満	3～10年未満	10年以上
n	44	12	20	48
%	35.5	9.7	16.1	38.7

$$\chi^2 = 30.327 \quad p < .01$$

## 7) 現役プレーヤー時代の競技レベル

現役プレーヤー時代の競技レベルは、表10の通りである。 $\chi^2$ 検定を行った結果、日本代表として国際大会に出場した経験のある教員がわずかであることのみ認められ、その他のカテゴリー間には有意な差は認められなかった。

表10. 現役プレーヤー時代の競技レベル

レベル	日本代表	全国大会	ブロック大会	都道府県大会	市町村大会	大会経験なし
n	2	25	13	31	18	35
%	1.6	20.2	10.5	25.0	14.5	28.2

$$\chi^2 = 36.057 \quad p < .01$$

## 8) バレーボールに関する指導者・審判資格の有無

バレーボールに関する指導者・審判資格の有無は、表11の通りである。回答者が皆無の資格を除いて $\chi^2$ 検定を行った結果、1%水準で有意な差が認められ、「なし」の回答が最も多いことが確認された。

表11. バレーボールに関する指導者・審判資格の有無（重複回答）

資格	スポーツリーダー	指導員	上級指導員	コーチ	上級コーチ	マスターコーチ	A級審判	B級審判	C級審判	なし
n	7	24	0	6	0	0	5	3	3	76
%	5.6	19.4	0.0	4.8	0.0	0.0	4.0	2.4	2.4	61.4

$$\chi^2 = 241.734 \quad p < .01$$

## (2) 顧問の属性とリーダーシップ行動の関係

## 1) 担当教科

上掲した顧問の属性とリーダーシップ行動（総得点）の関係を分析した結果、表12に示した通り、担当教科において5%水準の有意差が認められた。

表12. 担当教科とリーダーシップ行動の関係

担当教科	n	Mean	SD	t	p
保健体育科	49	151.1	19.3	2.15	.03
保健体育科以外	75	142.8	22.0		

さらに、性別と担当教科をクロスさせて分析した結果、表13に示した通り、担当教科による差は、女性教員のリーダーシップ行動の差が要因となっていることが判明した。

表13. 性別の担当教科とリーダーシップ行動の関係

性別	担当教科	n	Mean	SD	t	p
男性	保健体育科	22	150.8	20.7	1.16	.25
	保健体育科以外	51	144.5	21.5		
女性	保健体育科	27	151.3	18.1	2.09	.04
	保健体育科以外	24	139.2	22.6		

リーダーシップ行動は、「練習と指導」「民主的行動」「専制的行動」「社会的支援」「報酬行動」「バレーボールの技術」「バレーボールにおける精神力」の7尺度で構成されているため、女性の保健体育科教員と他教科を担当する教員間の差は、どの因子によるものなのかを探るため、因子ごとの合計点の平均値の差の検定を行った。

その結果、表14に示した通り、女性の保健体育科教員は、女性の他教科の教員より、選手との関係向上に関する「社会的支援」の因子、「バレーボールの技術」の因子、「バレーボールにおける精神力」の因子において、5%水準で有意に高いことが認められた。

表14. 女性教員の担当教科とリーダーシップ行動因子の関係

因子	担当教科	n	Mean	SD	t	p
社会的支援	保健体育科	27	26.8	3.9	2.46	.02
	保健体育科以外	24	23.6	5.3		
バレーボールの技術	保健体育科	27	21.3	3.6	2.09	.04
	保健体育科以外	24	18.9	4.6		
バレーボールにおける精神力	保健体育科	27	18.0	2.9	2.49	.02
	保健体育科以外	24	15.7	3.7		

## 2) 教職経験年数・顧問経験年数とリーダーシップ行動との関係

担当教科以外の様々な属性とリーダーシップ行動との関係を探索した結果、表15に示した通り、教職経験年数が10年以上の教員で、バレーボール部の顧問経験年数が「5年以上」の教員は、「5年未満」の教員よりも、リーダーシップ行動（総得点）が5%水準で有意に高いことが認められた。

表15. 教職経験年数10年以上の教員の顧問経験年数とリーダーシップ行動の関係

教職経験年数	バレーボール部の顧問経験年数	n	Mean	SD	t	p
10年以上	5年以上	64	149.3	18.3	2.43	.01
	5年未満	15	135.2	25.6		

担当教科と同様に、リーダーシップ行動の因子ごとの合計点の平均値の差の検定を行った結果、表16に示した通り、課題達成機能に関する「練習と指導」の因子 ( $p < .05$ ), 「バレーボールの技術」の因子 ( $p < .01$ ), 「バレーボールにおける精神力」の因子 ( $p < .05$ ) において有意な差が認められた。

表16. 教職経験年数10年以上の教員の顧問経験年数とリーダーシップ行動因子の関係

因子	バレーボール部の顧問経験年数	n	Mean	SD	t	p
練習と指導	5年以上	64	38.9	5.2	2.51	.01
	5年未満	15	34.7	8.5		
バレーボールの技術	5年以上	64	21.1	3.4	3.03	.003
	5年未満	15	17.9	5.0		
バレーボールにおける精神力	5年以上	64	17.4	2.7	2.18	.03
	5年未満	15	15.7	3.2		

保健体育科教員は、児童生徒・学生時代の長年にわたる競技経験を有しており、バレーボールの専門的な指導技術や知識を持ち合わせていると考える、また、顧問（監督）として、長年にわたって個性の異なる多くの部員を指導し、様々な大会でゲームを経験することによって、さらにその指導技術が高まり、経験知が積み重なっていくと考えられる。このような理由から、リーダーシップ行動における女性教員の担当教科による差、バレーボール部の顧問経験年数による差が生じていると推察する。

(3) 顧問のリーダーシップ行動とチーム心理の関係

チームのキャプテンが回答した顧問のリーダーシップ行動の総得点と SPTT の総得点を単回帰分析した結果、図 1 に示した通り、両者の間には、0.1%水準の正の相関がある ( $r=0.496$ ) ことが認められた。

さらに、顧問のリーダーシップ行動のどの因子が強く関わっているのかを調べるために、因子ごとの合計得点と SPTT の総得点の単回帰分析を行った結果、表17に示した通り、第一因子の「練習と指導」( $r=0.480$ ) に関する行動が最も強く関係しており、次に「バレーボールにおける精神力」( $r=0.470$ )、「バレーボールの技術」( $r=0.461$ ) の順であることが明らかになった。

「練習と指導」の内容は、普段の練習の中で部員一人ひとりに対する「技術・戦術指導」、「課題の提示と課題解決のサポート」、「役割行動の必要性の教示」などであり、これらの行動が、部員のチーム心理に最も強いプラスの影響を与えていることが判明した。

また、大会のゲーム中における、的確なゲーム分析・観察・判断による「タイムアウト」、「メンバーチェンジ」、「技術・戦術の助言」、さらに、最後まで諦めない強い精神力を発揮させるための「激励」などの行動も部員のチーム心理にプラスの影響を与えていることが判明した。

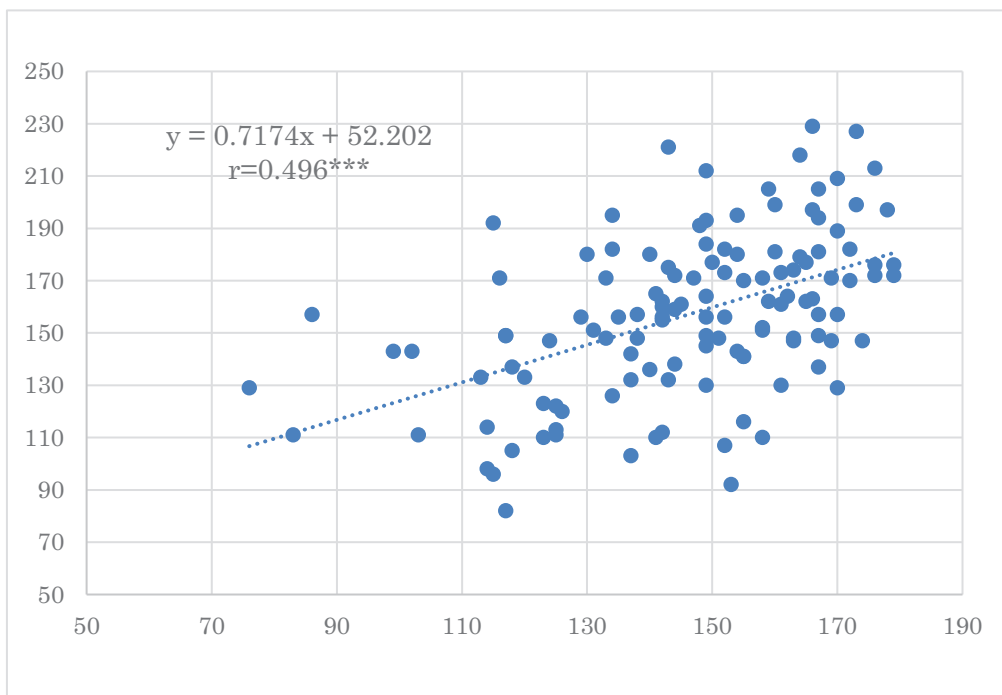


図 1. 顧問のリーダーシップ行動の総得点と SPTT 総得点の相関図

表17. 顧問のリーダーシップ行動因子の合計得点と SPTT 総得点の関係

因子	単相関係数	有意水準
練習と指導	0.4800	$p < .001$
民主的行動	0.3994	$p < .001$
専制的行動	0.2567	$p < .01$
社会的支援	0.3433	$p < .001$
報酬行動	0.1478	n.s.
バレーボールの技術	0.4613	$p < .001$
バレーボールにおける精神力	0.4702	$p < .001$

(4) 顧問のリーダーシップ行動と競技レベルの関係

顧問のリーダーシップ行動と競技レベルの関係を分析することを目的として、全国・ブロック大会に出場した中学校群と県・市大会のみに出場した中学校群の2つの群に区分し、両群の中学校の顧問のリーダーシップ行動



総得点の平均値の差の検定を行った。

その結果、表18に示した通り、2つの群間の平均値には有意な差は認められなかった。したがって、顧問のリーダーシップ行動は、チーム心理に影響力を持つが、競技レベルとの直接的な関係はないことが判明した。

ネット型スポーツであるバレーボールのゲームパフォーマンスには、チームメンバーの体格・体力・運動技能が大きく影響すると考えられる。すなわち、競技レベルには、身長が高く、ジャンプ力・持久力が強く、様々なバレーボール技能に優れたメンバーを揃えることができるかが、直接的に影響すると推察する。

表18. 顧問のリーダーシップ行動総得点と競技レベルの関係

競技レベル	n	Mean	SD	t	p
全国・ブロック大会	83	145.0	19.0	1.14	.26
県・市大会	34	149.9	24.7		

#### (5) レクリエーション活動等の実施状況とチーム心理の関係

##### 1) レクリエーション活動等の実施状況

バレーボール部の練習や試合以外で、どのような活動を行っているかについて自由記述で回答を求めた。その結果、124校中98校から回答を得られた。表19に示した通り、最も多くの部で行われている活動は、「三年生を送る会」(74校)であり、次いで「新入生歓迎会」(31校)、「大会前後の集会」(19校)であった。

表19. レクリエーション活動等の実施状況 (重複回答)

順位	内容	n	%	順位	内容	n	%
①	三年生を送る会	74	59.7	⑥	BBQ	7	5.6
②	新入生歓迎会	31	25.0	⑦	引退試合	7	5.6
③	大会前後の集会	19	15.3	⑧	親子バレー	5	4.0
④	食事会	14	11.3	⑨	OG戦	3	2.4
⑤	卒部式	13	10.5	⑩	小学生との交流会	2	1.6
【その他】お花見, クリスマス会, 大学生との交流会, カラオケ大会, 餅つき							

注1) %はN=124の割合である。

注2) 「大会前後の集会」は、壮行会・激励会・祝勝会・慰労会である。

注2) 「食事会」の品目は、焼き肉、たこ焼き、カレー、カツ丼、かき氷、そうめん、雑煮、餃子などである。

##### 2) レクリエーション活動等の有無とチーム心理の関係

レクリエーション活動等の実施とチーム心理の関係を分析するため、回答があった部を「活動あり」群、回答がなかった部を「活動なし」群とし、2つの群のチーム心理総得点の平均値の差の検定を行った。表20に示した通り、「活動あり」群は「活動なし」群よりも平均値が高く、5%水準で有意な差であることが判明した。

したがって、レクリエーション活動等を行うことは、チーム心理にプラスの影響を与えると言える。

表20. レクリエーション活動等の有無とチーム心理総得点の関係

レクリエーション活動等	n	Mean	SD	t	p
活動あり	98	160.8	30.1	2.77	.01
活動なし	26	142.4	30.3		

## 4. 結 語

本研究では、郵送による質問紙調査によって、中学校女子バレーボール部の顧問の個人属性とリーダーシップ行動、顧問のリーダーシップ行動とチーム心理、顧問のリーダーシップ行動と競技レベルの関係を分析・検討し、さらに、レクリエーション活動等とチーム心理の関係についても分析・検討した。それらの結果は、以下のように要約できる。

#### (1) 顧問の個人属性とリーダーシップ行動の関係

保健体育科担当の女性顧問と他教科担当の女性顧問との間に5%水準の有意差が認められ、保健体育科担当の女性顧問のリーダーシップ行動が有意に高いことが認められた。また、その差の内容は、「社会的支援」、「バレーボールの技術」、「バレーボールにおける精神力」の3因子であることが判明した。

10年以上の教職経験を持つ顧問を対象にして分析した結果、バレーボール部顧問経験年数が5年以上の顧問と5年未満の顧問との間に5%水準の有意な差が認められ、5年以上の顧問のリーダーシップ行動が有意に高いことが認められた。また、その差の内容は、「練習と指導」、「バレーボールの技術」、「バレーボールにおける精神力」の3因子であることが判明した。

#### (2) 顧問のリーダーシップ行動とチーム心理の関係

顧問のリーダーシップ行動とチーム心理の間には、0.1%水準の正の相関がある ( $r=0.496$ ) ことが認められた。

チーム心理と関係の強いリーダーシップ行動は、「練習と指導」( $r=0.480$ )、「バレーボールにおける精神力」( $r=0.470$ )、「バレーボールの技術」( $r=0.461$ ) であることが判明した。

#### (3) 顧問のリーダーシップ行動と競技レベルの関係

全国・ブロック大会に出場した中学校群と県・市大会のみに出場した中学校群に区分し、両群の中学校の顧問のリーダーシップ行動総得点の平均値の差の検定を行った結果、有意な差は認められなかった。

#### (4) レクリエーション活動等とチーム心理の関係

「三年生を送る会」「新入生歓迎会」「大会前後の集会」等の活動を行っている群と行っていない群のチーム心理総得点の平均値の差の検定を行った結果、「活動あり」群は「活動なし」群よりも平均値が高く、5%水準で有意な差であることが判明した。

以上の結果を総括すると、中学校女子バレーボール部員のチーム心理（チーム有能感、コーチ信頼、メンバー関係）を高めるためには、顧問は、自身の競技経験によって得た実践知に加えて、顧問としての指導経験と研修を積み上げ、「練習と指導」、「バレーボールにおける精神力」、「バレーボールの技術」を中核とするリーダーシップ行動を発揮するとともに、年間計画の中にレクリエーション活動等も位置づけ、顧問と部員及び部員間の信頼関係の構築に努めなければならぬと言えよう。

## 5. 今後の課題

平成30年6月1日現在で、全国の中学校女子バレーボール部のうち、22.8%<sup>15)</sup>が外部指導員を導入している。本研究の協力校においても外部指導員による技術指導を行っているという回答が一部に見受けられたため、練習での技術指導や大会で采配している監督と顧問が一致していない部が存在している可能性が考えられる。したがって、今後は、この状況を踏まえた質問方法の改変に取り組む必要があると考える。

また、平成30年6月1日現在で、全国の中学校女子バレーボール部は7,882校に存在する。本研究の分析対象は、それらの中の124校である。したがって、より精緻なデータ分析には、調査対象を拡大させる必要があると考える。

さらに、本研究では、回答の負荷を軽減させることで有効回答率を高めることを意図して、女子バレーボール部キャプテンによる顧問のリーダーシップ行動とチーム心理の評価をデータとして用いたが、今後は、部員全員による評価をデータとする事例的研究も必要であると考えられる。

## 文 献

1) スポーツ庁 (2018) 運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン。

[http://www.mext.go.jp/sports/b\\_menu/shingi/013\\_index/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2018/03/19/1402624\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/sports/b_menu/shingi/013_index/toushin/_icsFiles/afieldfile/2018/03/19/1402624_1.pdf) (参照日2018年8月5日)

- 2) 文部科学省 (2013) 運動部活動での指導のガイドライン.  
[http://www.mext.go.jp/sports/b\\_menu/sports/mcatetop04/list/detail/\\_\\_\\_icsFiles/afieldfile/2018/06/12/1372445\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop04/list/detail/___icsFiles/afieldfile/2018/06/12/1372445_1.pdf) (参照日2018年8月5日)
- 3) 松原敏浩 (1990) 部活動における教師のリーダーシップ・スタイルの効果, 教育心理学研究, 38 (3), 312-319.
- 4) 公益財団法人日本中学校体育連盟 (2018) 平成30年度加盟校調査集計 (確定値) 加盟生徒数 (女子).  
[http://njpa.sakura.ne.jp/pdf/kamei/h30kameikou\\_f.pdf](http://njpa.sakura.ne.jp/pdf/kamei/h30kameikou_f.pdf) (参照日2018年8月5日)
- 5) 竹林浩志 (2004) リーダーシップ研究の発展と課題, 大阪明浄大学紀要, 4, 67-71.
- 6) Chelladurai,P.and Saleh,S.D.(1980)Dimensions of leader behavior in sports: Development of a leadership scale,Journal of Sport Psychology,2,34-45.
- 7) 山本勝昭・遠藤俊郎 (1993) オリンピック前後の心理的チーム変容に関する研究, 猪俣公宏編, 平成4年度日本オリンピック委員会スポーツ医・科学研究報告No.Ⅲ チームスポーツのメンタルマネジメントに関する研究-第3報-, 22-29.
- 8) 深山元良 (2012) スポーツ集団におけるリーダーシップ研究の展望: 特性, 行動, 状況アプローチの視点から, 城西国際大学紀要, 20 (1), 129-141.
- 9) 猪俣公宏・武田徹・小山哲・岡沢祥訓・吉沢洋二・栗木一博・伊藤友記・岩佐美喜子・工藤和俊・兄井彰・車佳哉・石倉忠雄 (1993) チーム心理診断テスト(SPTT)利用の手引きの作成, 平成4年度日本オリンピック委員会スポーツ医・科学研究報告No.Ⅲ チームスポーツのメンタルマネジメントに関する研究-第3報-, 4-10.
- 10) Team Building Japan(2018)チームビルディングとは.  
<http://www.teambuildingjapan.com/about/purpose/> (参照日2018年8月5日)
- 11) 藤田雅文 (2017) 高等学校運動部顧問の管理行動に関する研究: 男女バスケットボール部顧問を対象として, 体育・スポーツ経営学研究, 31, 55-71.
- 12) 日本バレーボール協会 web ページ (2019) 第47回全日本中学校選手権大会.  
<https://www.jva.or.jp/index.php/domestic/2017/zenchu/outline> (参照日2018年8月5日)
- 13) 全国学校データ研究所 (2013) 全国学校総覧2014年版, 原書房.
- 14) 中野博幸・田中敏 (2012) フリーソフト js-STAR でかんたん統計データ分析, 技術評論社.
- 15) 公益財団法人日本中学校体育連盟 Web ページ, 外部指導員数 (男子部 女子部) 平成30年度加盟校調査集計 (速報値) [http://njpa.sakura.ne.jp/pdf/kamei/h30gaibu\\_mf.pdf](http://njpa.sakura.ne.jp/pdf/kamei/h30gaibu_mf.pdf) (参照日2018年8月5日)

# **A Study on Leadership Behaviors for Sports of Women's Volleyball Club Managers and Sport Psychology for Teams in Junior High Schools**

FUJITA Masafumi\* and YASUMOTO Sora\*\*

The purpose of this study was to analyze the relationship between leadership behaviors for sports of women's volleyball club managers and sport psychology for teams in junior high schools.

The subjects were 124 managers of junior high school women's volleyball clubs in Japan. The data for analysis were gathered by mailing questionnaire surveys, conducted between September and October 2018. 7 factors of "training and instruction", "democratic behavior", "autocratic behavior", "social support", "positive feedback", "abilities of volleyball" and "mental care of volleyball" composed manager's leadership behaviors. 3 factors of "team competence", "trust in coach" and "member relations" composed sport psychology for teams. The captain of the member evaluated manager's leadership behaviors with Likert five scales and evaluated sport psychology for teams with Likert seven scales.

In addition, the actual situation of personal attributes of managers, achievements in sports events and recreational activities were investigated.

The results were picked out as follows.

- 1) It was admitted that the total score of leadership behaviors were significantly higher in woman managers in charge of health and physical education than woman managers in charge of subjects expect health and PE.
- 2) It was admitted that the total score of leadership behaviors were significantly higher in the managers who had experience as volleyball club manager for 5 years or more than them who had the experience for under 5 years.
- 3) There was a significant correlation between the total score of leadership behaviors for sports and the total score of sport psychology for teams.
- 4) It was admitted that "training and instruction", "abilities of volleyball" and "mental care of volleyball" had a high correlation with sport psychology for teams.
- 5) The relevance was not recognized between leadership behaviors for sports and achievements in sports events.
- 6) The total score of sport psychology for teams was significantly higher in the clubs that performed recreational activities than the clubs that did not perform recreational activities.

---

\*Health and Physical Education, Naruto University of Education

\*\*Kobe City Office of Administration and Finance